

よみがえれ！
有明訴訟弁護団
(後藤富和)発行
092-512-1636
090-9602-0700

有明海全域で壊滅的な漁業被害継続

収量例年の2割

【ノリ養殖】昨年秋ノリのシーズンから、有明海の全域で近年にないノリの大凶作が続いている。各地で赤腐れ病や芽流れが発生し、秋ノリの収穫は有明海全体でも例年の2〜5割程度。長崎など、ひどいところでは収穫0〜1割程度の地区もあった。年が明けても、佐賀県鹿島市・白石町沖などで大規模な赤潮が発生するなどして、栄養塩が底をつきかけており、今後、色落ち被害が広がる見通しが高い。

【貝類】タイラギもほとんど全域で壊滅状態であり、サルボウ貝の大量斃死も発生した。

【漁船漁業】今季はタコ、クツゾコをはじめとするほとんどすべての魚種が不漁である。

ノリ大凶作の再来

有明海全域で病気が蔓延

諫早締切で海攪拌されず

【福岡県】柳川地区●福岡県有明海漁連では、2回の入札で、昨年度は約4億5千万枚(約52億円)だったのが、今年度は1億7千万枚(約17億円)にまで落ち込んでいる。とりわけ大牟

田地区がひどく昨年度の4分の1しか採れていない。種付け後、雨が降り諫早湾干拓調整池からの排水があるとノリ網に異常に汚れがつく。この汚れはポンプを使って洗っても落ちない。普通の珪藻とは違う。その結果、ノリ芽が弱くなった。赤腐れ病も発生している。

【中島地区】●ノリは、昨年度同時期の半分もとれていない。せいぜい4割程度。10月14日の種付けの時にはそんなに心配するような状況ではなかったが、その後、雨が降り、ノリ網に汚れが付着し、赤腐れ病が出た。この網の汚れはポンプでは洗い流せない。

【大牟田地区】●赤腐れ病が発生するよりも前に、緑班病でノリ芽が流出してしまったり人が多し。みるみるうちに腐れていき、酸処理して網をあげようとしても間に合わない、ちぎる前からノリ芽が流れて網だけになったところが多かった。潮の流れが弱く海が攪拌されない。もう諦めるしかない。冷凍網もダメだろう。

【熊本県】玉名地区●10月13日に種付けし順調に生育していたが、11月5、6日に雨が降り、雨が7、4となった。ノリ芽の根の部分に、念質性の珪藻がついている、ノリ芽2回摘んだ後に壺状菌が発生した。ねずみ色の潮目が見えた。これがノ

リ網に付着した。

【荒尾地区】●赤腐れ病と壺状菌が発生した。後者は蔓延するので他に網を出せず12月13日に網を撤去した。採れた人でも昨年度の3分の1から4分の1程度。赤腐れ病は早い所では網を張り込んですぐから発生した。網を張り込んですぐから発生した。2回摘んだ後に壺状菌が発生した。ねずみ色の潮目が見えた。これがノリ網に付着した。

【佐賀県】川副地区●雨が多く降り、良い冷凍網にできなかったため、通常のサイズに生育する前に網を上げて冷凍した。ノリ芽が弱く網から外れることが多い。11月13日から摘み始めたが赤腐れ病を肉眼視できた。病気を避けるため通常よりも網を高く上げるなど網の管理を徹底したが、それでも例年の半分も取れず3分の1から4割程度の水揚げにしかならなかった。網を上げている時間が長いのでノリの品質は悪い。

【大浦地区】●秋芽のノリは、昨年度100万枚だったのに対し、今年度23万枚で、4分の1にしかなっていない。11月17、18日の雨で赤腐れ病が蔓延し、12月9日に網を撤去した。冷凍網で挽回したいが、過去3年連続で冷凍網は色落ちに見舞われているので期待できない。去年までは秋芽が何とか取れたので持ちこたえることができたが、今年

は冷凍が駄目だと踏ん張れない。
有明水産振興センターの情報●昨

年11月から漁場全域で赤腐れ病が発生し重症化した。漁師らの必死の努力によって年末にはやや沈静化したものの、塩田川河口付近から発生した赤潮が、年明けから継続しており予断を許さない状態である。

諫早干拓調整池の汚水排水が原因

【長崎県】有明地区●ノリの芽付けができなかったため、佐賀県の漁師に種貝を分けてもらわなければならなかった。10月25日、ノリの細胞が切れているのが確認できた。11月5日に雨が降って、芽落ちがひどくなり、芽が全部流れてしまっただけでなく、芽落ちの原因は汚れ。冷凍網も痛んでいると思われる。漁協全体で前年比13%しか採れていない。下げ潮が島原半島沿いに回り込む時の濁りがひどい。栄養塩も高く、川からの流入がない有明地区で栄養塩が高いということ。諫早湾干拓調整池からの排水によるものと思われる。

【瑞穂地区】●11月15日の雨以降、小潮でノリ網が浸かりっぱなしに所に、諫早湾干拓調整池からの排水がされてしまい1〜2日の内にノリ網が茶色になって芽流れが起きた。とにかく汚れがひどくノリ網を展開する端から芽流れが生じている。